

テクノエイド (上級)研修会

優秀賞

ベッド上でのギヤッチアップによる尾骨の褥瘡形成に対するチーム対応の事例

鹿教湯三才山リハビリテーションセンター

鹿教湯病院 南4階病棟

齊藤 誠

施設概要

- 病棟種別 : 回復期リハ病棟 ベッド数 47 床
- 人員配置 : 看護師 25:1 介護職30:1
- 勤務体制 : 2交代制
- リハビリ : 1日最大180分
- 回復期病棟とは主に脳血管疾患や整形疾患等の回復期リハビリ入院の対象となる患者に、90日～180日を上限として、入院してリハビリテーションを行い社会・在宅復帰を目指す病棟

事例概要と課題

対象者：臍下からの両下肢麻痺で体格が良い

課題：尾骨周囲に難治性の褥瘡発生

生活を細分化し、尾骨周囲に負荷が掛かるものを抽出すると・・・

1. ベッドをギャッチアップした時に尾骨周囲に荷重が掛かる姿勢をしていた
 2. ベッドを長時間ギャッチアップして過ごしていた
 3. 車椅子が本人の体型に合っていなかった
 4. トランスファーボードを使用した移乗をしていた
- 上記の1～4に対して多職種で検討し対策を行った

課題に対する対策

1. ギャッチアップ時の、**下肢ポジショニングクッション使用中止**（殿部にかかる**体圧の分散**）
2. ギャッチアップの時間調整
 - **時間表示がされるマットレスに変更し、客観的な時間確認を実施**
3. 車椅子の変更
 - これまで： 硬性コルセットの干渉 → 体幹の捻じれ → 浅座り → 骨盤後継の座位姿勢
 - 大腿部の座面接地面積の減少 → 殿部にかかる**体圧の上昇**
 - 変更後：**チルト型車いす** → 殿部にかかる**体圧の分散**
4. 移乗方法の変更
 - スライディングボードから**床走行式リフト**に変更
 - 尾骨接触を最小限**とする移乗方法の検討、リハスタッフ及び病棟への周知

対策実施後の結果

- 対策実施1週間後から褥瘡の改善を認め、**2週間後には更なる改善**がみられた。

これにより、リハビリテーション時はトランスファーボードによる移乗の再開ができた。

- 床走行式リフトでの車椅子移乗により、**離床時間の拡大**にもつながった。

<今後に向けた対応>

1. 様々な事象に対する多角的視点での介入(チームケア)の継続
2. スタッフに対する、テクノエイド機器の知識と手技獲得に向けた定期的かつ継続的な機会の提供
3. テクノエイド機器の適正購入に向けた取り組み(費用対効果の検証とアプローチ)